

S22-1 医療における“賢明な選択”の普及を目指して

○梶 有貴^{1,2}

¹東大院医, ²総合病院水戸協同病院

人口構造の変化、医療費の高騰、健康格差の拡大などにより、世界では目まぐるしく医療提供体制が変わりつつある。その流れの中で、私たち医療者は、将来の医療のためにどのようにして質を保ちながらも持続可能な医療を行っていけばいいのだろうか。Choosing Wisely Campaign はそのような思いから発足した活動であり、いま世界中に広がりを見せている。

本活動は医療のプロフェッショナルの立場として医療資源についての医療者と患者の対話を促進することで、患者の医療(処置、検査、治療)の意思決定を支援し、その名の通り、“賢明な選択”を推奨する運動である。現在、世界各国の学会や団体等で、5つのリスト(Top Five List)を提唱し、考え直すべき医療行為とその理由を提示している。2012年に始まった米国内科専門医認定機構財団の活動に呼応し、日本でも2016年に Choosing Wisely Japan が設立された。

国内でもポリファーマシーや抗菌薬の過剰使用に伴う多剤耐性菌(AMR)の対策が近年注目されてきており、“賢明な選択”についてのニーズが高まってきている。ただし、これには shared decision making が重要であり、従来の医師主動の方針決定ではなく多職種で患者を支援していくも必要となる。ここでは本活動の紹介と共に医師-薬剤師間の連携を中心に多職種連携の在り方を一緒に考えていきたい。